# 教育研究開発(FD)

- 学生による授業評価アンケート 結果と授業改善 -

2019



# 東京成徳短期大学

# 2019年度 学生による授業評価アンケート 結果と授業改善

## 目 次

14 C Ø) I =	
【1】「学生による授業評価アンケート -より良い授業を目指して- 」趣旨と目的 ・	2
【2】実施の方法	. 4
資料1「授業アンケートの依頼と実施方法」	. [
<u>資料 2</u> 「授業アンケート用紙」	(
資料 3 「教員選択質問用紙」	·· 10
【3】集計結果と考察・授業改善コメントの方法	• 11
(1)学科全体の集計結果<結果の表とグラフ>	12
(2) 各科目の集計結果と考察・授業改善コメント	
<各科目の結果の表・グラフと教員コメント> ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	15
【4】アンケート結果の分析と評価	• 160
2019年度「授業評価アンケートーより良い授業を目指してー」結果報告書を受けて ‥	• 165
索 引	··· 166

#### はじめに

この「学生による授業評価アンケート」は本年で16年目の実施となる。実施当初のアンケートは授業構成要素を大きく6領域に分け、それぞれについて数項目の質問を設定し、これらを合わせて授業評価とし、また満足度についても学生による評価を得て、授業全体の評価としていた。結果としてアンケートのボリュームも大きなものとなり、学生の負担感が大きく、おざなりな回答が気になるようになっていった。

その後、数年ごとの改編と検討を重ねる中で、これまでのアンケート結果が良い授業に結び ついているのかとの疑問が呈され、アンケートを全面的に見直すこととなった。

新たに見直した授業評価アンケートでは、学修の成果を確認し、その結果からより良い授業への示唆を得るべく、従来の「学生満足度」を軸とするアンケートから、「学修成果(修得・向上できたもの)」を軸とするものへと改編を行った。また、集計時に学修成果に関する回答とその他の設問への回答との関連性を検討することによって、より良い授業(学修成果が上がる授業)への改善の方向性を明らかにすることを目指した。

また、科目ごとのねらいや工夫に沿った内容のアンケートを実施するための工夫として、「教員選択・設定質問」を設け、より良い授業のために、教員自らが質問項目を設定する仕組みを導入した。自身の授業に関する効果的なアセスメント手法を検討することもまた、より良い授業を目指すために教員各自に求められる姿勢であると考える。

【1】「学生による授業評価アンケート -より良い授業を目指して- 」趣旨と目的

「東京成徳短期大学 学生による授業評価実施規程」より

(趣旨)

第1条 この規程は、東京成徳短期大学教育開発研究専門委員会規程第2条の規程に基づき、本学の教育開発研究活動等の一環として行う学生による授業評価(以下授業評価という。)の実施と運営について必要な事項を定める。

(授業評価の目的)

第2条 本学が開設する授業科目について学生による評価を行い、その結果を教員が共有し 授業改善に役立てるとともに、ファカルティ・ディベロップメント活動を促進し、本 学の教育開発研究活動を推進し、教育の質の向上に資することを目的とする。

#### 【2】 実施の方法

本学 FD 委員会は、過年度の成果等を参考にして作成した「授業評価アンケート ―より良い授業を目指して― 」を例年通り前期、後期それぞれ全授業において実施することを学務部会において提案し、学務部の了承を得て、教授会等にて非常勤を含む全教員に周知した。通年科目については原則として後期に実施するものとした。

アンケート用紙と回収用封筒は企画・IR 室が準備し、各教員に配布した。教員は指定の期間内(概ね授業終了までの1ヶ月間)にそれぞれの授業でアンケートを実施した。回答用紙は授業ごとに学生の面前で封緘され、回収期間内に教務課に提出され、企画・IR 室を経由してデータ処理業者に渡った。アンケートへの記述が学生の成績等に影響することを避けるため、データ入力及び集計は業者委託により行い、集計を終えたアンケート結果が教員のもとに届くのは、成績提出後となっている。

本アンケートは、マークシートと記述部分とからなり、質問には共通質問と、各教員による選択・設定質問とがある。学修成果に対する質問を設け、学生自身がその授業を履修することによって考え方や知識・技能といった学修成果がどの程度得られたかを自己評価させている。選択・設定質問に関してはあらかじめ作成された選択肢を用いることも、教員自身が新たに設定することも可能であり、その決定は教員の判断による。自由記述部分は授業構成要素(授業方法、進度、教科書・教材、板書・資料提示、学生への対応、環境・設備)について、評価する点、改善を求める点それぞれを、学生に自由に記述させるものであり、教員はアンケート実施時に学生の積極的な記述を促している。

全授業、全クラスでの実施を前提とすることから、学生への負担軽減、惰性による作業的回答を避けるため、また教員からの、アンケートは授業進行の障害となるとの声に応え、問題を極力厳選しアンケートの数を減らし双方の負担を軽減する工夫をしている。

#### 「2019年度前期授業アンケート依頼文」

短期大学 専任教員・非常勤講師 各位

2019年6月27日 東京成徳短期大学 学務部教育開発研究(FD)担当

#### 授業アンケートの実施のお願い <前期科目>

2019 年度前期「授業アンケート<より良い授業を目指して>」を次の要領で実施いたします。

このアンケートは、本学の教育がどのように学生に理解され、どんな教育効果を生んでいるかを把握し、より良い授業に向けた教育開発研究を狙いとしたものです。また学生には、授業がどのような目的・ねらいに基づいて行われていたかを再確認させ、より高い学修成果を生むことを期待するものです。

教員・学生双方が授業アンケートのねらいを共有することと、教員は、その目標達成のためにどのような教授方法が効果的であるかを常に探求する姿勢を持つことが、より質の高い授業の実現につながるものと考えます。

#### 【問5、問6:自由記述について】

この自由記述欄には、より良い授業を実現させるために、学生の率直な授業への要望が書かれることを期待します。一方的な批判・中傷ではなく、授業改善に向けた建設的な意見を記述するよう、またできるだけ多くの声を拾うことができるよう、アンケート実施の際に、一言添えるなどご配慮いただきますようお願いいたします。

#### 【問8、問9:設定質問のお願い】

この授業アンケートでは、それぞれの授業ごとに授業効果の検証に有効な質問項目を、授業担当者自身が設定できるよう、選択・自由設定質問(問 8・問 9)を設けました。授業の形態・方針に応じて、それぞれの授業担当者が、授業効果の把握に最もふさわしいと考える質問を、(別紙)授業に関するアンケートく選択質問>よりお選びいただくか、自由設定質問としてご自身で設定くださいますようお願い致します。

趣旨をご理解いただき、何卒ご協力のほど宜しくお願い申し上げます。

授業アンケート集計結果は9月中旬頃にお届けいたします。その後、授業に関する PDCA の一環として、それぞれの担当授業のアンケート結果を考察の上、『評価と授業改善について』のコメントのご提出をお願いいたします。

1. 実施期間 7月1日(月)から7月29日(月)

授業計画との関係で適当な日をお選びください。なお、できるだけアンケートの回収率が高くなるよう、出席状況等にもご配慮ください。

2. アンケート用紙の提出先と提出期限

回収したアンケート用紙は以下のいずれかにご提出下さい。

提出期限

8月3日(土)14時迄

1号館1階 教務課

4号館1階 非常勤講師控室

- 3. 実施方法 \*\*\*\*\*(問8、問9教員設定質問にご注意ください) \*\*\*\*\*
- ① <全科目共通質問>(問1~問7)は全ての科目が対象です。
- ② 問8、問9<選択質問・自由設定質問>は授業担当者が設定して下さい。 (別紙)「授業アンケート<選択質問>①~⑭」を配布し、質問を選択・指定するか、または授業担当 教員自身で質問の設定を行ってください。その際の質問番号は⑮⑯です。 教員による質問設定の 場合は、回答選択肢(5:そう思う 4:やや思う 3:どちらでもない・・など)も作成し配布してください。
- ③ 「授業アンケート<選択質問>(別紙)」は、4 号館1階非常勤講師室、および1号館1階 教務課に置いてあります。必要枚数を取り、ご使用下さい。 複数の授業でこの用紙を使用する 場合は、使用済みのプリントをなるべく学生から回収し、次の授業でも再利用下さいますようご協力 お願い致します。
- ④ 授業アンケート終了後はマークシートを指定の封筒に回収し、その場で封をしてください。
- ⑤ 授業アンケート回収封筒の表面の【実施した質問に関する調査】に回答してください。担当教員指示質問を設定した場合は、質問文をお書きください。この質問に回答がないとデータが正しく集計されない可能性がありますので、ご注意ください。

#### 4. 実施に際してのお願いと注意事項

- ① 授業アンケートの記入に際しては、学生が慌てることなく、充分な時間(10分程度)の確保ができるようご配慮ください。
- ② 授業アンケートに学生意見が率直に反映できるよう、記入者特定や机間巡視は控えてください。
- ③ 余ったアンケート用紙は封筒には入れずに、まとめてそのまま戻してください。

#### 「2019年度後期授業アンケート依頼文」

短期大学 専任教員・非常勤講師 各位

2019 年 12 月 11 日 東京成徳短期大学 学務部教育開発研究(FD)担当

#### 授業アンケートの実施のお願い <後期・通年科目>

2019年度後期「授業アンケート<より良い授業を目指して>」を次の要領で実施いたします。

このアンケートは、本学の教育がどのように学生に理解され、どんな教育効果を生んでいるかを把握し、より良い授業に向けた教育開発研究を狙いとしたものです。また学生にも、授業がどのような目的・ねらいに基づいて行われていたかを再確認させることにより、より高い学修成果を生むことを期待するものです。

教員・学生双方がこの授業アンケートのねらいを共有し、教員は目標達成のために効果的教授方法を 常に探求する姿勢を持つことが、より質の高い授業の実現につながるものと考えます。

#### 【問5、問6:自由記述について】

この自由記述欄には、より良い授業を実現させるために、学生の率直な授業への要望が書かれることを期待します。一方的な批判・中傷ではなく、授業改善に向けた建設的な意見を記述するよう、またできるだけ多くの声を拾うことができるよう、アンケート実施の際に、一言添えるなどご配慮いただきますようお願いいたします。

#### 【問8、問9:設定質問のお願い】

この授業アンケートでは、それぞれの授業ごとに授業効果の検証に有効な質問項目を、授業担当者 自身が設定できるよう、選択・自由設定質問(問 8・問 9)を設けました。授業の形態・方針に応じて、それ ぞれの授業担当者が、授業効果の把握に最もふさわしいと考える質問を、(別紙)授業に関するアンケー ト<選択質問>よりお選びいただくか、自由設定質問としてご自身で設定くださいますようお願い致しま す。

趣旨をご理解いただき、何卒ご協力のほど宜しくお願い申し上げます。

授業アンケート集計結果は2月中旬頃にお届けいたします。その後、授業に関するPDCAの一環として、それぞれの担当授業の集計結果を考察の上、『評価と授業改善について』のコメントのご提出をお願いいたします。

1. 実施期間 12月20日(水)から1月20日(月)

授業計画との関係で適当な日をお選びください。なお、できるだけアンケートの回収率が高くなるよう、出席状況等にもご配慮ください。

2. アンケート用紙の提出先と提出期限

回収したアンケート用紙は以下のいずれかにご提出下さい。

<sub>提出期限</sub> 1月25日(土)14時迄

1号館1階 教務課

4号館1階 非常勤講師控室

- 3. 実施方法 \*\*\*\*\*(問8、問9教員設定質問にご注意ください)\*\*\*\*\*
- ①<全科目共通質問>(問1~問7)は全ての科目が対象です。
- ②問8、問9<選択質問・自由設定質問>は授業担当者が設定して下さい。

(別紙)「授業アンケート<選択質問>①~⑭」を配布し、質問を選択・指定するか、または授業担当 教員自身で質問の設定を行ってください。その際の質問番号は⑮⑯です。 教員による質問設定の 場合は、回答選択肢(5:そう思う 4:やや思う 3:どちらでもない・・など)も作成し配布してください。

- ③ 「授業アンケート<選択質問>(別紙)」は、4号館1階非常勤講師室、および1号館1階 教務課に置いてあります。必要枚数を取り、ご使用下さい。 複数の授業でこの用紙を使用する 場合は、使用済みのプリントをなるべく学生から回収し、次の授業でも再利用下さいますようご協力 お願い致します。
- ④ 授業アンケート終了後はマークシートを指定の封筒に回収し、その場で封をしてください。
- ⑤ 授業アンケート回収封筒の表面の【実施した質問に関する調査】に回答してください。担当教員指示 質問を設定した場合は、必ず質問文をお書きください。この質問に回答がないとデータが正しく集計 されない可能性がありますので、ご注意ください。

#### 4. 実施に際してのお願いと注意事項

- ① 授業アンケートの記入に際しては、学生が慌てることなく、充分な時間(10分程度)の確保ができるようご配慮ください。
- ② 授業アンケートに学生意見が率直に反映できるよう、記入者特定や机間巡視は控えてください。
- ③ 余ったアンケート用紙は封筒には入れずに、まとめてそのまま戻してください。

## 授業アンケート — より良い授業を目指して—

幼教

選択質問・自由設定質問>  員の指示に従い、(別紙) 「授業アンケート(選択・自由 記入し、回答を「回答欄」にマークしてください。 【質問番号欄】	設定質問)」	から該当す <sup>2</sup>		号を下の「質 欄 】	問番号欄」
選択質問・自由設定質問>					
7. この授業を履修して、その専門分野での考え方や 知識、技能が身につきましたか。	⑤ 身についた	4 わりと 身についた	③ どちらとも 言えない	② あまり身に つかなかった	① 身に つかなかった
教室環境・設備などで <u>改善してほしい点</u> があれば具					
16. この授業について、授業方法、授業進度、教科書・	数材 板書	· 提示資料	話し方 学	生への対応	
教室環境・設備などで <u>良かった点</u> を書いてください					
<ul><li></li></ul>		• 垾云咨料	舒上方 学	生への対応	
<ul><li>⑦ 自分の得意分野の知識や技能</li><li>① 教育・保育に関する研究意欲</li><li>⑦ 社会のニーズを理解した、教育・保育における実践</li></ul>	力・即応力				
<ul><li> 社会に活きる力、教養、美しい心</li><li> 教育・保育に関する専門的知識や技能</li></ul>				•	
4. あなたがこの授業で修得・向上できたと思われるも	理解できた のを次の中:	理解できた 	言えない	できなかった	垤肝 できなかっ7 
3. あなたはこの授業内容を理解できたと思いますか。	5	真剣だった  4 わりと	ョスない  ③ どちらとも	ではなかった  ② あまり理解	ではなかっ/  ① 理解
2. あなたはこの授業に対して真剣に取組みましたか。 (事前学習など自主的学習を含む)	<u></u> ⑤ 真剣だった	④ わりと 真剣だった	③ どちらとも 言えない	② あまり真剣 ではなかった	 ① 真剣 ではなかった
<ol> <li>あなたはこの授業の目的を理解して受講したと思いますか。</li> </ol>	⑤ そう思う	ややそう思う	③ どちらとも 言えない	② あまり そう思わない	そう思わない
共通質問>					

# (別紙)授業アンケート<選択・自由設定質問>

この用紙は、授業アンケートで使用します。教員の指示に従い、マークシートの【質問番号欄】に番号を記入した上で回答してください。

※他の授業で再利用することもありますので、このプリントには何も記入しないでください。

## く選択質問>

1	授業のレベルについて、どのように	5	4	<b>3</b> ちょうど	2	1
	感じましたか。	高かった	やや高かった	よかった	やや低かった	低かった
2	授業の進行速度は適切でしたか。	5	4	3	2	1
		速かった	やや速かった	ちょうど よかった	やや遅かった	遅かった
3	配布されたプリント、指示された参考書や	5	4	3	2	1
	教科書等は授業を理解する上で	役立った	わりと役立った	どちらとも 言えない	あまり 役立たなかった	役立たなかった
	<u>役立ちましたか。</u>					
4	受講マナーの悪い学生(私語、携帯、飲食、	5	4	3	2	1
	授業中の入退出等)への注意は	適切だった	まあまあ 適切だった	どちらとも 言えない	あまり 適切ではなかった	適切では なかった
_	適切でしたか。					
5	あなたは事前に用意する用具・材料に	5	<b>4</b> わりと	<b>3</b> どちらとも	<b>2</b> あまり	<b>1</b> 準備を
_	ついて、十分に準備できたと思いますか。	準備できた	準備できた	言えない	準備できなかった	しなかった
6	宿題や小テストは授業の理解に	5	<b>4</b> わりと	<b>3</b> どちらとも	<b>2</b> あまり	<b>1</b> 有効では
	有効でしたか。	有効だった 	有効だった	言えない	有効ではなかった	なかった
$\bigcirc$	この授業に関して予習、復習、教員の	5	4	3	2	1
	指示による準備等、授業時間以外の	2時間以上	1時間以上	30分以上	30分未満	まったく しなかった
	勉強を毎週どの程度しましたか。					
8	この授業の内容について担当教員の	5	4	<b>3</b> どちらとも	<b>2</b> あまり	<b>1</b> できて
	準備はよくできていましたか。	できていた	わりとできていた	言えない	できていなかった	いなかった
9	この授業の位置づけをどう判断しますか。	5	4	3	2	1
		専門的だった	やや 専門的だった	専門的とも 入門的とも いえなかった	やや 入門的だった	入門的だった
10	この授業に対して積極的に参加すること	5	4	3	2	1
	(他人の意見を知ること、自分の意見を	できた	わりとできた	どちらとも 言えない	あまり 参加できなかった	参加できなかった
	発表すること)ができましたか。					
11)	この授業はシラバスどおりに	5	4	3	2	1
	進められていますか。	進められている	ほぼ 進められている	あまり 進められていない	まったく 進められていない	シラバスを 読まなかった
12	この授業の開始時間や終了時間は	5	4	3	2	1
	定刻どおりでしたか。	いつも 定刻どおりだった	ほぼ 定刻どおりだった	定刻どおりでない ことが多かった	いつも定刻どおり ではなかった	時間は一定 ではなかった
13	教科書は授業、予習、復習等で有効に	5	4	3	2	1
	使用できたと思いますか。	大変有効に 使用できた	有効に 使用できた	どちらとも 言えない	あまり 使用しなかった	ほとんど 使用しなかった
14)	授業の進め方について、目的や内容に	5	4	3	2	1
٠	沿った工夫がされたと思いますか。	様々な	- 多少 工夫がされていた	どちらとも 言えない	ー あまり 工夫はなかった	・ ほとんど 工夫はなかった
15	【担当教員指示質問】					
16	【担当教員指示質問】					
	NO DESCRIPTION					

東京成徳短期大学

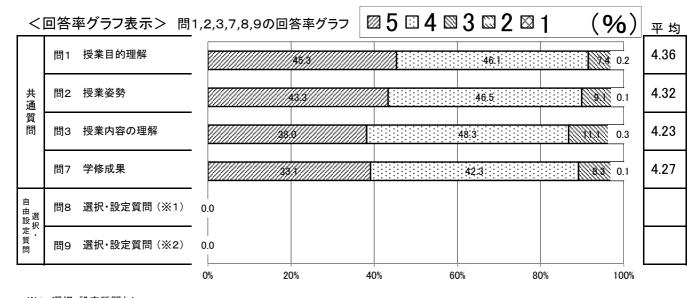
#### 【3】 結果の集計と考察・授業改善コメントの方法

業者委託により集計されたアンケート結果は、各教員に通知され、その結果から教員はそれ ぞれの授業の目的・ねらいや工夫をふまえて、学生による回答を検討し、回答から読み取った 内容と授業改善についてのコメントを作成する。アンケートの結果の集計に際しては、業者に 委託する際に、当該授業の学修成果を非常に高く評価した回答と高く回答した回答、比較的低 く評価した回答とに3分割し、それぞれの回答グループの他の質問項目への回答をクロス表に まとめるよう依頼してある。各科目の担当者は3つのグループの回答を比較することにより、 学修成果を軸とした分析・検討を行い、改善改良計画を立てることができる。 (1) 学科全体の集計結果

<結果の表とグラフ>

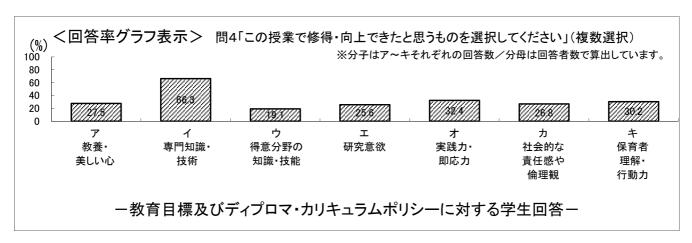
<u>科 目 コード:</u> <u>授業科目名: 全体</u> 担当教員名:

2019年度 前期 履修者数: 5207 名 回答者数: 4782 名



※1 選択・設定質問なし ※2 選択・設定質問なし

問5・問6(自由記述)「授業方法・教材資料提示・学生対応・環境等について」は別記配布



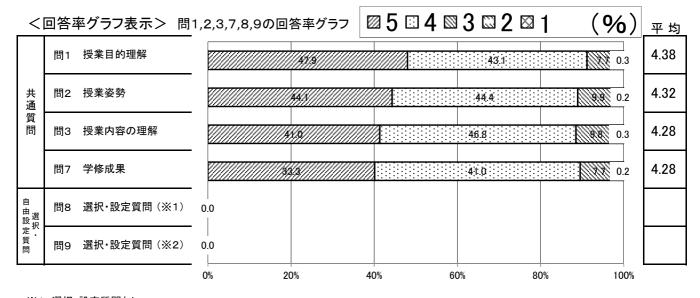
#### 《担当教員のコメント》

【授業アンケート結果(問7学修成果とのクロス集計、教員設定質問を含め)へのコメント】

# 【授業改善―授業アンケートを受けて】

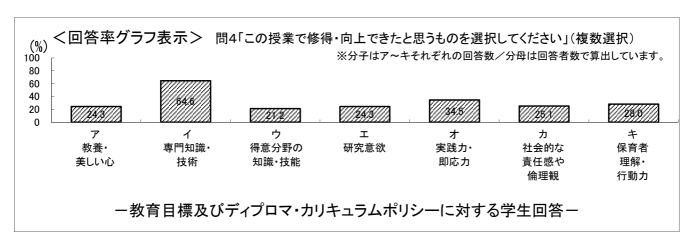
<u>科 目 コード:</u> <u>授業科目名: 全体</u> 担当教員名:

2019年度 後期 履修者数: 5300 名 回答者数: 4447 名



※1 選択・設定質問なし ※2 選択・設定質問なし

問5・問6(自由記述)「授業方法・教材資料提示・学生対応・環境等について」は別記配布



#### 《担当教員のコメント》

【授業アンケート結果(問7学修成果とのクロス集計、教員設定質問を含め)へのコメント】

# 【授業改善―授業アンケートを受けて】

(2) 各科目の集計結果と考察・授業改善コメント

<各科目の結果の表・グラフと教員コメント>

#### 【4】 アンケート結果の分析と評価

本アンケートは全科目、全教員での実施を基本としており、2019 年度のアンケート対象者(延べ履修者数)は前期後期を合わせて 10,507 名に上る。うち回答者数は延べ 9,229 名で、回答率は 87.8%であった。前期には実施を予定していた 39 科目、延べ 71 名の教員すべてに関してアンケートが実施された。後期に関しては 44 科目(通年科目も含む)、教員は延べ 75 名へのアンケートが予定されていたが、後期科目では複数担当教員のうち 1 教員のクラスで、また通年科目においては 1 科目で事情によりアンケートが実施されなかったため、後期には 43 科目(通年科目も含む)延べ 73 名の教員がそれぞれ担当科目・クラスごとに授業アンケートを実施した。

学生による回答用紙は科目・クラスごとに封緘された状態で学外の委託業者に送られ、集計が行われた後、企画・IR室を経由して担当教員に科目単位で結果が通知された。なお、同一科目を複数教員が担当した場合は担当者単位で集計・通知を行い、コメントも依頼した。

#### ① 科目開設時期による分析

2019 年度のアンケートの東京成徳短期大学幼児教育科全体の科目開設(アンケート実施)時期による結果(平均値)は次の表の通りである。なお、2019 年度入学者よりカリキュラムが変更されているが、参考として()内には 2018 年度の平均値を示す。

	質問内容	前期	後期(通年科目を 含む)
問1	授業目的の理解	4. 36 (4. 33)	4. 38 (4. 38)
問 2	授業姿勢	4. 32 (4. 28)	4. 32 (4. 32)
問3	授業内容の理解	4. 23 (4. 18)	4. 28 (4. 26)
問 4	修得・向上できたもの(教育目標、カリキュ	下表の通り	
	ラムポリシー・ディプロマポリシーに対する回答)		
問5・6	自由記述	各科目で集約	
問 7	学修成果	4. 27 (4. 20)	4. 28 (4. 27)
問8・9	選択・自由設定質問	各科目で集約	

問1「授業目的の理解」では、前期、後期ともに他の質問項目の結果と比較し最も高く、授業の入り口とも言える授業目的の理解は比較的達成できている。問2「授業姿勢」については目的に次ぐ高さであり、学生自身は真剣に学んだと評価していることが窺える。問3「授業内容の理解」については、目的理解、授業姿勢と比較するとやや低くなっているが、全科目に亘る学習内容の理解としては、十分に高い評価であると考えられる。

問4「修得・向上できたと思われるもの(教育目標及びカリキュラムポリシー・ディプロマポリシーに対する回答)」の結果は以下の通りである。なお、2019年度入学者よりカリキュラ

ムが変更されているが、参考として()内には2018年度の平均値を示す。

修得・向上できたもの	前期	後期(通年科目を含む)
ア:教養・美しい心	27.5% (26.8%)	24. 3% (26. 7%)
イ:専門知識・技術	66. 3% (65. 2%)	64.6% (68.3%)
ウ:得意分野の知識・技能	19. 1% (18. 1%)	21. 2% (20. 6%)
工:研究意欲	25.6% (23.1%)	24. 3% (22. 0%)
オ: 実践力・即応力	32.4% (30.4%)	34. 5% (30. 7%)
カ:社会的責任間・倫理観	26.8% (23.0%)	25. 1% (21. 2%)
キ:保育者理解・行動力	30. 2% (24. 9%)	28. 0% (25. 3%)

この数値は、分子をア〜キそれぞれの選択回答数、分母を全回答者数として得られたものである。ア〜キはすべて教育目標・カリキュラムポリシー・ディプロマポリシーから抽出された本学幼児教育科の柱となる項目であり、学生には学習目標ア〜キの中から 2 個以上を選ぶよう求めている。結果を見ると、前期と後期が同傾向にあり、前期と後期で科目が変わっても総体としてはほぼ同等の学びが得られていると考えられる。中でも「専門知識・技術」に関しては、前期 66.3 %、後期 64.6%と他項目と比較し高い数字を示し、多くの学生が専門知識・技術の修得を実感していることが読み取れる。保育者養成を目的に掲げた学科であるだけに、その専門の知識・技術の修得向上を評価する学生が高いことは望ましいことであるう。一方、「専門知識・技術」以外の要素に関しては 35%未満であり、「専門知識・技術」のみが突出しているともいえる。それ以外の要素に関しては科目の特性に応じて成果が認められるのかもしれない。

問5・6については、問5が「評価できる授業方法」、問6が「改善を希望する授業方法」である。それぞれ授業の構成要素を例示したうえで学生の自由記述とし、授業改善に活用できるよう、記述内容を各授業担当者のもとに届けている。内容や活用方法に関してはそれぞれの教員のアンケート結果のコメント、授業改善を参照されたい。

問7「この授業を履修し、その分野での考え方や知識、技能が身につきましたか(学修成果)」はこの授業アンケートで最も重視したい項目である。問7に関しては、総計として前期が4.27 後期4.28と、数字としては高く十分評価できるものである。「授業内容の理解」と「授業姿勢」と同傾向の数値であることが継続的に、また多くの科目で認められており、相関関係を因果関係に帰することはできないが、授業姿勢及び授業内容の理解の改善を図ることが学修成果を高めることにつながるという可能性をここに提示しておきたい。

問8・9は前述した選択・自由設定質問である。各授業担当者が自身の授業効果として確認したい項目を独自の視点から設定していく質問であり、各教員の授業に込めた理念が現れる部分である。あらかじめ用意された選択質問の中から選ぶ、または独自に質問を設定することになるが、いずれにしろ、担当者が授業を通して何を最も伝え、授業を受けた学生に評価して欲しいと考えているのか、教授ポリシーが現れる部分でもある。問8・9に関しても、教員コメントの中でその結果と活用を参照されたい。

学修成果を学生自身がどう感じているかは、授業評価を通して教育開発研究を行う上で、 最も大切なポイントであると考える。本学の「授業アンケート —より良い授業を目指して — 」は、こうした視点から、学修成果を高めるために工夫を重ねてきた成果である。

2019 年度の授業アンケートにおいては、結果の集計に際して、学修成果が特に高い(5) グループ、高い(4) グループ、学修成果が比較的低い(3・2・1)のグループに分けて、問1・2・3・8・9の得点をクロス集計して示した。3者を比較することで学修成果をあげている要素を検討できないかという仮説によるものであったが、その実効性に関しては各教員のコメントを参照されたい。

個別授業に関する学生からの評価については、最も重視したい学修成果(問7:授業を通じて修得・向上した力)についてのみ言及したい。問7に対する学生の評価の平均が前期、後期を通して最も高かったものは5.0であり、逆に最も低いものは3.59であった。全教科平均は前期4.27、後期(通年科目を含む)4.28であり、現在の授業内容でも、概ね学生の学修成果は高いレベルで達成できているものといえる。また、2018年度の結果と比しても、同等かそれ以上となっている。

科目の特性等の影響も多分にあると思われるが、目安として、問7に対する学生評価の平均が4.0未満の科目については、自由記述等を十分分析し、得点が低かった原因について省察を深められることを期待したい。

また、同一科目かつ同一シラバス、つまり、同じ内容を複数の教員が分担している科目に関しては、問7の結果の違いは担当教員と配当された学生の違いであると考えることもできる。該当する科目を担当した教員は、他の教員の結果も参考にし、必要に応じて情報や意見等を交換することも検討されたい。

#### ② 科目種別による分析

今年度の新入生からカリキュラムが改変された。本学の履修モデルにおける説明には、卒業必修科目は「豊かな人間性と社会性を育てる」、卒業選択必修科目は「個々の学生の得意な分野を伸ばし、魅力のある保育者を育てる」、卒業選択科目は「保育の実践力と即応力を育てる」「確かな専門的知識と研究意欲を育てる(資質の高い専門家を養成するカリキュラム)」と記されているが、新しいカリキュラムにおいては特に教養科目にあたる科目(社会科学・情報科学・健康身体運動科学・行動科学・外国語・芸術に関する8科目)を卒業選択必修科目として設定し、短期大学にふさわしい教養教育と職業教育、人格教育の融合的な実現を図った。

今回の結果には 2018 年度以前の入学者に対して開講されている科目が含まれているが、 2019 年度のアンケートにおける、東京成徳短期大学幼児教育科全体の科目種別による結果(平 均値)は次の表の通りである。

	質問内容	卒業必修	卒業選択必修	卒業選択
問1	授業目的の理解	4. 38	4. 33	4. 37
問 2	授業姿勢	4. 36	4. 29	4. 32
問3	授業内容の理解	4. 26	4. 24	4. 25
問 4	修得・向上できたもの(教育目標、カリキュ	下表の通り		
	ラムポリシー・ディプロマポリシーに対する回答)			
問5・6	自由記述	各科目で集約		
問7	学修成果	4. 28	4. 27	4. 28
問8・9	選択・自由設定質問	各科目で集約		

問1から問3、問7のすべてにおいて、平均値は、数値としては十分に高いものであるが、 比較すると、卒業必修科目が最も高く、次いで卒業選択科目、卒業選択必修科目となってい る。保育者となることを強く望み、保育者になるための学修に特に意欲をもって取り組んで いる本学の学生にとって、教養科目はその必要性や重要性をやや捉えにくい性質を持ってい る可能性がある。今後は、入学時のオリエンテーションや各授業のガイダンス等で、教養教 育の意義についてわかりやすく伝えて理解を図っていく工夫が求められる。

問4「修得・向上できたと思われるもの(教育目標及びカリキュラムポリシー・ディプロマポリシーに対する回答)」に関する結果は以下の通りである(数値の算出方法は前項に準ずる)。

修得・向上できたもの	卒業必修	卒業選択必修	卒業選択
ア:教養・美しい心	30.6%	30.9%	24.5%
イ:専門知識・技術	59.4%	53.3%	68.2%
ウ:得意分野の知識・技能	16.9%	31.0%	18.9%
工:研究意欲	39.3%	19.5%	23.8%
オ: 実践力・即応力	27.7%	32.7%	34.3%
カ:社会的責任間・倫理観	32.5%	18.8%	26.2%
キ:保育者理解・行動力	29.9%	21.0%	30.3%

今回のデータに関しては 2018 年度以前の入学者に対して開講されている科目が含まれて いるため、分析には留意が必要だが、特徴的な部分に関してのみ述べたい。まず、アの「教 養・美しい心」の数値は卒業選択必修、卒業必修、卒業選択の順で低くなっている。卒業必修 科目は「豊かな人間性と社会性を育てる」科目、卒業選択必修科目は教養科目にあたる科目 であり、科目種別設定の企図と結果との間にある程度の整合性が認められる。同様に、イの 「専門知識・技術」に関しても、特に卒業選択科目に関して数値が高いことは、「保育の実践 力と即応力を育てる」「確かな専門的知識と研究意欲を育てる(資質の高い専門家を養成する カリキュラム)」という科目種別設定の企図との間に整合性が認められる。ウの「得意分野の 知識・技能」に関しても、教養科目であるとともに「個々の学生の得意な分野を伸ばし、魅力 のある保育者を育てる」という科目種別設定の企図に合致した結果であるといえる。エの「研 究意欲」に関しては、科目群の企図としては卒業選択科目に成果が期待されるところである が、特に卒業必修科目において高い数値が認められる。このことは、卒業必修科目とされる6 科目の中に「課題研究 A」「課題研究 B」という研究実施とその成果発表・報告を重視する 2 つの科目が含まれ、それが卒業必修科目全体の3分の1にあたるためだと考えられる。オの 「実践力・即応力」は科目種別設定の企図通り、卒業選択科目において最大値、カの「社会的 責任間・倫理観」も「豊かな人間性と社会性を育てる」科目である卒業必修科目で最大値と 科目種別設定の企図通りである。キの「保育者理解・行動力」に関しては卒業必修科目と卒 業選択科目では30%前後であるのに対し、卒業選択必修科目では21.0%であり、これに 関しても教養科目という特性が反映されていることが読み取れる。

このように、学生が実感している学びの成果は概ね、本学が企図した科目種別の特性と合致している。

なお、問 5・6・8・9 については、該当する科目のそれぞれの教員のアンケート結果に対するコメント及び授業改善を参照されたい。

日本の高等教育は、時代と共に急速なICTの進化により、国際的教育のグローバル化が顕著となり、文部科学省では、高等教育各機関における自主的・自律的な質保証への取組を推進しています。各大学や短期大学等が実施する教育改革の優れた取り組みに対して、文部科学省が支援するとともに社会に情報提供を行い、質の高い大学教育改革を進めています。高等教育の国際化により、諸外国からの留学生などに対して日本の高等教育の質の高い基準が求められています。

短期大学は。平成20年度から設置基準に義務化された FD 活動を通して、様々な取り組みがなされてきています。本学では、学務部 FD 委員会によって、授業法の改善が実施されています。特に学務部 FD 委員の先生方とクラス委員の学生との懇談会での、教員と学生が対面する中の生きた意見交換は、大きな意味を持つ成果であると評価したいと思います。また、今回提出された「学生による授業アンケート」結果に対しての各教員からのコメントは、個人及び科目の学修成果を見直す機会となります。

これらの成果は、短期大学認証評価機構での自己点検評価「授業効果・学修成果の査定」として検証評価されているところです。

2019年度の「学生による授業アンケート」の結果によると、ディプロマポリシーである「専門知識・技術」は、他の項目と比較した場合、「学習成果が上がった」と答えた割合いが、前期 66.3%に対して、後期は 64.6%でした。全体的には概ね専門的意識や技能が身についていると解釈できますが、約35%の学生は、実感が伴っていなかったか、あるいは自信に繋がらなかったとも解釈できます。その他については、FD委員会が結果について考察しているので参考にされ、今後の授業改善の一助にしていただきたいと思います。

今回の学生によるアンケート結果については、各科目において様々な幅があり、それぞれの科目の特徴や授業形態等によって、その評価は異なると考えられます。

また、担当教員のコメントの中には、授業改善に対して、学生の学修に対するモチベーションを高める工夫や、学生自らが興味や関心の持てるアクティブラーニングの取り組みなど、授業者の授業改善が、年を追う毎に、工夫されていることが見られます。

今後に向けて、学生によるアンケート調査や教員同士の授業参観など、FDの取り組みを多重化していくことで、さらなる授業改善によって高い学修成果が得られることに期待したいと思います。本学の質の向上に向けて教員が一層努力され総合的FD活動のアセスメントを行うと共に、新たな取り組みが示され、教員一丸となって、授業改善に努めていきたいと思います。

東京成徳短期大学 幼児教育科長 安見克夫

## 索引

浅川 茂実	85
池田 三鈴	
井桁 重乃	58,83,84,132,150
石川 雅俊	122
磯部 知愛	146
糸山 昌己	30,99,113,118,151
井部 奈生子	154
大國 ゆきの	22,59,93,104,111,144
大澤 洋美	29,100,110,119,153
甲斐 聖子	33,34,41
片貝 晴夫	61,67
川島 哲	135
北洞 誠一	
木埜下 大祐	26,55,70
金城 悟	80
郡司 敦	72,96,106,128,134
小泉 左江子	73,74
後藤 悌二	
今野 浩子	46
佐藤 純子	40,103
白山 智丈	69,126
鄒敏俐	
杉本 亜鈴	20,38,39,91,102,139,140,157
高橋 能樹	86
武井 大輔	45,48
伊達 久子	63,64,65,66
田中浩二	23,37,94,136,155
寺田 清美	
永井 優美	31,49,53,101,114,117,120
永田 陽子	125
中山 恭一	
	子·······79
	44,121
能渡 綾菜	
馬場・康宏	
福山 多江子	
藤川志つ子	
藤村 秀子	······································
堀内 秀雄	
松本純子	
松本 紀子	
宮本 雄太	81,145
森 眞理	75

# 索引

八木 玲子	25,36,62,95,130,133
矢澤 由紀	123
安見 克夫	16,50,87,115,124
山下 祐加	71,127
吉田 博行	21,35,60,92,143
和田 信行	57
渡邉 晶	51
渡辺 真知子	42